

令和 8 年度（2026 年度）
一般社団法人 海峡都市関門 DMO
事業計画

自 令和 8 年 4 月 1 日
至 令和 9 年 3 月 3 1 日

一般社団法人海峡都市関門 DMO（以下、関門 DMO）は、令和 8 年度において、国内外からの誘客およびエリア内の周遊促進を目的として、エリアセールス、エリアマネジメント、エリアマーケティング、地域観光商品の開発の 4 分野を柱に事業を推進します。具体的には、観光 DX を活用したマーケティングの実施、日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡」を核とした歴史・文化資源の活用、関門海峡の自然環境を活用した観光商品の開発、橋梁・トンネル等の社会基盤を活用したインフラツーリズム、防災を主軸とした教育旅行に取り組みます。あわせて、宿泊を伴う滞在への転換に向けて、食文化を活用したガストロノミーツーリズム、夜間・早朝の活動機会の創出、小規模 MICE の誘致およびクルーズ船の受入に関する取組を新たに進めます。

また、令和 7 年度に「Green Destinations Top 100 Story Awards」の「Destination Management」部門において世界第 3 位に選出されたことを踏まえ、国際的な評価を来訪および観光消費の拡大につなげる取組を推進します。

1. エリアセールス事業（広報・営業活動）

- ・ 地域観光資源の戦略的な情報発信
- ・ 国内外の旅行会社等に向けた営業活動（地域・行政等との連携により実施）
- ・ 門司港レトロ地区における小規模 MICE の誘致

2. エリアマネジメント事業（持続可能な観光地の実現）

- ・ 地域共通クーポン「かんもん Pay」事業
- ・ 地域ガイドの育成および受入体制の強化
- ・ 生成 AI を活用した観光受入体制の整備
- ・ ナイトタイムエコノミーの推進
- ・ クルーズ船の受入に関する取組

3. エリアマーケティング事業（地域観光分析）

- ・ 観光ビッグデータを活用した観光客の動態把握・分析
- ・ アンケート調査を活用した観光客のセグメント分析
- ・ エリア内観光資源の整備と販路拡大の支援

4. 地域観光商品の開発

- ・ 社会基盤を活用したインフラツーリズム
- ・ 関門海峡の自然環境を活用した観光商品の開発
- ・ 防災を軸とした教育旅行
- ・ 日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡」の認知拡大と商品開発

- ・ 「ふく」等を活用したガストロノミーツーリズムの推進
- ・ 広域連携による観光商品の開発
- ・ 新たな観光資源・産業の開発

5. その他取り組み

- ・ 持続可能な観光地マネジメントの推進
- ・ 地域の教育機関と連携した地域共創事業の実施
- ・ 観光庁等の支援メニューの活用
- ・ インターンシップの募集および受入

I. エリアセールス事業（広報・営業活動）

1. 地域観光資源の戦略的な情報発信

関門海峡エリアの魅力を国内外へ届けるため、国内外のメディアに対する取材誘致やプレスリリースの配信により、報道を通じた認知の拡大を図ります。発信内容は、日本遺産のストーリーや Green Destinations における評価など、他地域との差別化につながる要素を軸に構成します。

2. 国内外の旅行会社等に向けた営業活動（地域や行政等との連携により実施）

自治体および観光事業者と一体となり、国内外の旅行会社ならびに海外ランドオペレーターに対する営業活動を展開します。国内外で開催される旅行博への出展や、大都市圏の旅行会社への定期的な訪問を通じて、旅行商品の造成と販売を進めます。あわせて、地域協議会および行政と連携し、地域が有する観光資源の魅力とストーリーを効果的に伝えることにより、海外からの誘客につなげます。

3. 門司港レトロ地区における小規模 MICE の誘致

門司港レトロ地区に所在する歴史的建造物を会議・催事の会場（ユニークベニュー）として活用し、小規模・高付加価値型の MICE の誘致に取り組みます。企業研修、インセンティブツアー、専門分野の会合等を対象に、主催者および企画会社に対する提案活動を行います。あわせて、会議後の視察・体験プログラムを地域の観光コンテンツと組み合わせて提供することにより、滞在の延伸と地域内消費の拡大を図ります。

II. エリアマネジメント事業（持続可能な観光の実現）

1. 地域共通クーポン「かんもん Pay」事業

関門海峡エリアにおける周遊の促進と地域経済の活性化に向け、2023 年度に提供を開始した地域共通クーポン「かんもん Pay」の利用促進を強化します。個人観光客向けの販売に加え、旅行会社が取り扱う団体旅行や修学旅行、ふるさと納税との連携など、複数の販売経路における利用促進を継続し、地域内消費の拡大を図ります。

2. 地域ガイドの育成および受入体制の強化

国内外において個人手配旅行（FIT）が増加し、リピーターの獲得が重要性を増しています。旅行者は地域に根ざした体験を求める傾向にあり、こうしたニーズに応えるため、関門 DMO は多言語に対応できる地域ガイドの育成プログラムを開発し、専門性の高いガイドチームの組織化を進めます。

ガイドを介して地域固有の魅力を深く伝えることにより、旅行者と地域とのつながりを生み、再訪の意向を高めることを目指します。これらの取組を通じて、地域ならではの体験を求める国内外の旅行者の期待に応え、持続可能な観光の実現につなげます。

3. 生成 AI を活用した観光受入体制の整備

国内外からの旅行者の利便性向上と円滑な受入体制の構築に向け、生成 AI を活用した業務環境の整備を検討します。令和 8 年度は、門司港レトロ地区における観光施設に関する問い合わせ対応や運用の効率化を支援し、旅行者の満足度向上を図ります。

4. ナイトタイムエコノミーの推進

関門海峡エリアでは、日中の来訪が中心であり、宿泊を伴う滞在への転換が課題となっています。この課題に対応するため、夜間および早朝の時間帯における活動機会の創出に取り組みます。夜間の景観や海峡の眺望を活かした体験コンテンツの開発、地域事業者との連携による営業時間の調整、二次交通の確保に関する検討を進め、滞在時間の延伸と宿泊需要の拡大を図ります。

5. クルーズ船の受入に関する取組

関門海峡エリアへのクルーズ船の寄港に対応し、受入体制の整備に取り組みます。寄港時の歓迎行事、寄港地観光（オプションルツアー）の造成、二次交通の確保および多言語対応について、港湾管理者、両市および地域事業者と連携して検討を進めます。寄港者の地域内での消費機会を確保することにより、寄港が地域経済に還元される仕組みづくりを目指します。

III. エリアマーケティング（地域観光分析）

1. 観光ビッグデータを活用した観光客の動態把握・分析

携帯位置情報等の観光ビッグデータを地域内で継続的に分析できる体制を構築し、来訪者の動態を把握します。分析結果は関門観光企画営業担当学会議等の場を通じて関係者と共有し、地域の観光課題に関する共通認識の形成と、地域全体の観光 DX に対する理解の向上を図ります。

2. アンケート調査を活用した観光客のセグメント分析

関門海峡エリアを訪れた旅行者を対象に、観光消費額、満足度、再来訪意向等に関するアンケート調査を実施します。これまで両市で個別に把握されてきた実態を統合的に分析し、ターゲットの設定および KPI（重要業績評価指標）の設計に活用することで、より効果的な観光戦略を立案します。

3. エリア内観光資源の整備と販路拡大の支援

関門海峡エリアの観光資源の整備と販路の確保を進めます。整備した体験コンテンツは予約管理システム「Bokun」により在庫を管理し、海外 OTA（オンライン旅行会社）を通じた流通に取り組みます。あわせて、関門 DMO が運営する地域 OTA サイトを構築し、リピーターの獲得に向けた施策を実施します。

これらの活動により得られるデータは、観光資源の利用状況、販売経路ごとの実績、国内外の旅行者の動向を分析するために活用し、観光資源の整備計画および販路拡大戦略の策定、リピーター獲得施策の改善に反映させます。

IV. 地域観光商品の開発

1. 社会基盤を活用したインフラツーリズム

関門海峡エリアに集積する橋梁、トンネル、港湾、通信施設等の社会基盤を活用したインフラツーリズム商品を開発します。令和 7 年度に設立した関門海峡インフラツーリズム推進連絡会議を通じて、施設管理者、自治体および観光事業者との連携を図り、地域の歴史と産業の発展を伝えるコンテンツとして提供します。

2. 関門海峡の自然環境を活用した観光商品の開発

瀬戸内海国立公園をはじめとする関門海峡エリアの自然環境と、地域の文化を組み合わせたアドベンチャーツーリズム等の観光商品を開発します。令和 7 年度に構築した「関門海峡マイスター」認定制度を継続・拡充し、体験型コンテンツを通じた周遊の促進を図ります。

3. 防災を軸とした教育旅行

地域の自然環境および防災施設等を活用し、防災意識の向上と環境学習を組み合わせた教育旅行プログラムを開発します。関門海峡ミュージアムに設置した体験型防災コンテンツを活用し、学校団体等を対象とした実践的な学びの機会を提供します。

4. 日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡」の認知拡大と商品開発

関門海峡日本遺産協議会と連携し、日本遺産に認定された関門エリアに所在する歴史的建造物や、映像作品の舞台となった街並み・景観を活用した地域活性化に取り組みます。日本遺産のストーリーを活かした観光商品を開発し、認知度の向上と誘客の促進を図ります。

5. 「ふく」等を活用したガストロノミーツーリズムの推進

関門海峡の潮流が育んだ水産物を代表する「ふく」をはじめ、両市に受け継がれてきた食文化を観光資源として活用し、ガストロノミーツーリズムを推進します。単に食を提供するにとどまらず、産地や流通の現場の見学、生産者・調理人との交流、調理体験等を組み合わせることにより、食の背景にある歴史と地域の営みを伝えるコンテンツとして構成します。あわせて、宿泊施設および飲食事業者との連携により、食を目的とした来訪の促進と滞在の延伸を図ります。

6. 広域連携による観光商品の開発

日本遺産「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」を活用した広域周遊コンテンツについて、長崎県内の関係自治体およびシュガーロード連絡協議会、公益財団法人

ながさき地域政策研究所と連携し、街道の起点である長崎から終着点である関門エリアまでを結ぶストーリーの下で取組を推進します。Experience Manager および地域事業者と連携してコンテンツの内容を充実させるとともに、国内外の DMC (Destination Management Company／現地手配会社) と連携した誘客に取り組みます。

7. 新たな観光資源・産業の開発

着地型ツアーの造成および交通事業者との連携による誘客に向けた取組を実施し、地域事業者と連携した旅行商品の開発を通じて、地域の観光商品の充実を図ります。関門海峡エリアの歴史・文化および産業を活用したコンテンツの造成に加え、地域の潜在的な観光資源を発掘し、新たな観光産業の創出を目指します。

V. その他の取組

関門 DMO における組織体制の整備として、以下の事業を実施します。

1. 持続可能な観光地マネジメントの推進

関門海峡エリアにおける持続可能な観光を実現するため、国際基準である GSTC-D (Global Sustainable Tourism Criteria for Destinations) および観光庁の日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D) に基づく取組を継続します。あわせて、Green Destinations における評価を踏まえ、環境保全、文化の継承および地域経済への貢献に配慮した観光活動を推進し、地域住民との協働を強化することで、旅行者と地域住民の双方にとってより良い観光地の形成を目指します。

2. 地域の教育機関と連携した地域共創事業の実施

地域の教育機関と連携し、観光をテーマとした教育プログラムの共同開発および学生による地域観光プロジェクトへの参画を推進します。これにより、次世代を担う人材の育成に寄与し、地域と観光の持続的な発展を目指します。

3. 観光庁等の支援メニューの活用

観光庁等が実施する補助事業について、活用を検討します。採択は提案内容により異なるため、調査事業等の公示があった段階で随時判断します。

4. インターンシップの募集および受入

関門 DMO は、観光を学ぶ学生等の実務に触れる機会を提供するため、インターンシップの募集および受入を行います。観光地域づくりの現場における業務を経験することにより、観光産業を将来の進路として考える契機とするとともに、地域の観光を担う人材の育成につなげることを目的としています。